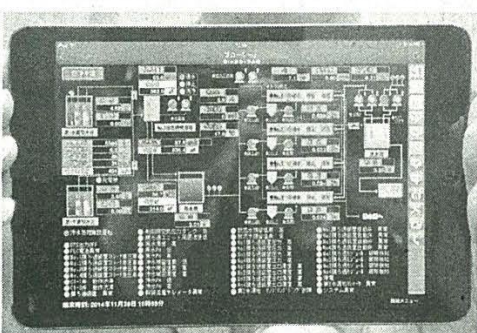


きらり*企業テク

スマホで水道遠隔管理

水郷都市・松江市に立地する小松電機産業が、上下水道の遠隔管理や放射線量を遠隔監視するシステムを開発し、業界をリードしている。

上下水道は通常、水源のポンプなどと自治体の施設とを、専用回線で結んで管理される。ただ、安全を確保するためには24時間の監視が必要で、施設の維持管理などに従来、莫大なコストがかかっていた。



タブレット端末で、場所を選ばず上下水道などを制御できる(松江市の小松電機産業本社で)

小松電機産業

松江市

やくも水神

このため、同社は2000年、携帯電話回線を使って離れた場所でも管理できるシステムを構築した。さらに03年には、同市在住のまつもとゆきひろさんが考案したプログ

ラミング言語「Ruby」を導入。システムの利便性を飛躍的に高めたという。宍道湖や中海のほとりで研究開発に取り組む同社が「やくも水神」と名付けたシステムを使えば、パソコンやスマートフォン、タブレット端末で、上下水道の水量などをほぼリアルタイムで監視でき

る。さらに緊急時には警報メールを管理者に発信する機能も備えて、「移動しながらでも、素早く状況を確認できて心強い」と、自治体の担当者にも好評だ。

アイデアは広がり、街頭のマンホールポンプの制御盤に専用装置を取り付けて放射線量を遠隔監視するサービスや、雪を解かす消雪装置も遠隔管理するサービスも開始。温泉水や水門、ダム管理など、全国360自治体7700施設(14年9月現在)で、同社のシステムが使われているという。

【概要】 1973年に前身の小松産業を創業。資本金1億円で従業員数95人。上下水道の遠隔制御システムと高速シートシャッターが主力商品。東京支社(東京都港区)、大阪営業所(大阪府東大阪市)、韓国・ソウルに拠点がある。

江戸時代中期、松江市八雲町の意宇川で、切り通し工事を成功させた豪農周藤弥兵衛(1651〜1752年)らの顕彰事業にも積極的な小松昭夫社長(70)は「良いものを吸収して発展させる。命を守る新技術を育てたい」と意気込んでいる。(松江支局 寺田航)



遠隔管理できる装置が取り付けられたマンホールポンプの制御盤